

情報化社会における道德教育の変化

4 質の高い教育を
みんなに

G-4

高倉優依 岡 彩花

1. 要旨

中学校での道德教育と情報化社会との関係性について、実際の教材を用いてその変化を研究し、現在の道德教育に足りないものを提案する。

2. 研究テーマ(リサーチクエスション・仮説など)

中学校での道德教科化と情報化社会との関係

Q.社会の情報化が進む中で、道德教育はどのように変化しているのか？

仮説

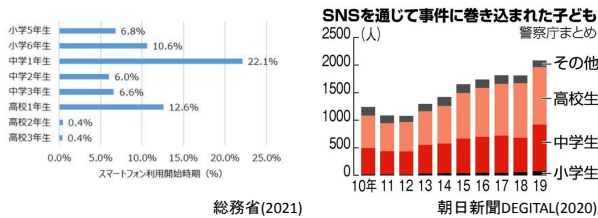
道德教育の変化は、その時代の社会環境を反映している。

3. 研究の目的・動機

2019年に中学校で道德が教科化された。それに伴い、道德の教科書に情報モラルに関する教材が増えてきていると感じる。子どもたちのインターネット利用の普及が進む情報化社会において、中学生に対して道德授業はどのような役割を果たすのか気になったから。

4. 先行研究・事例

【道德教育】自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道德性を養う



中学1年生からスマートフォンを持ち始める子どもが多く、SNSトラブルに巻き込まれる件数が増えていることが分かる。

5. 研究方法

教科化前後の教材を比較し、情報化についての教材を中心に新しく盛り込まれた内容を調査し、現在の道德教育に足りないものを提案する。

〈旧課程〉

3学年共通『私たちの道德』文部科学省

〈新課程〉

1～3年『新しい道德』東京書籍



『私たちの道德 中学校』

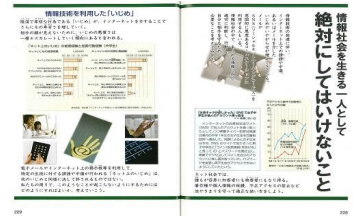
6. 研究結果

教科化前(旧課程)

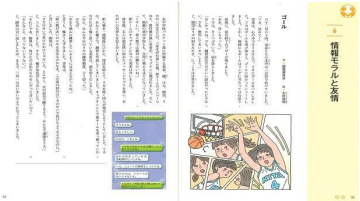
→情報モラルについての統計資料や過去の事例などを用いて、情報化の問題や危険性(ネット依存、不正アクセス、いじめ)を指摘している。

教科化後(新課程)

→資料を用いて説明するだけでなく、**情報モラルに関する物語**を通してネットの使い方を考えさせる形になっている。



『私たちの道德 中学校』文部科学省



『新しい道德2』東京書籍

7. 考察

道德の教科書に情報モラルについての内容は増えつつあり、その形態も**資料→物語**というように、子どもたちが問題をより身近に考えられるような工夫がされている。

しかし、旧課程でも新課程でもほとんどが情報化社会の悪い面しか表現しておらず、子どもたちにネットについての悪い印象を植え付けるものが多い傾向にある。

道德の教科書には今後、ネットの悪い面だけでなく、**SNSを有効に活用して成功した事例**などネットとうまく付き合っていくことで得られる良い面についても掲載するべきだと考える。

8. 結論

中学校での道德教育は、中学1年生からインターネットを利用する子どもが増えているという社会環境に合わせてネット関連の内容が増えており、現代の社会環境を反映していると言える。

9. 今後の展望

現在のネットに関する道德教材の内容はマイナスなイメージを抱かせるものが多いので、SNSへのプラスなイメージも掲載してほしい。

〈例〉・病気の子どもの夢を叶えるために SNSで呼びかけた結果、国境を超えて多くの人々が協力した。・落とし物を拾ってSNSに投稿した結果、持ち主の元に戻ってきた。

参考文献

『私たちの道德 中学校』文部科学省 『新しい道德1～3』東京書籍

総務省(2021)。「我が国における青少年のインターネット利用に係るフィルタリングに関する調査」

https://www.soumu.go.jp/main_content/000746226.pdf

朝日新聞DIGITAL(2020年3月12日)。「子どものSNS犯罪被害、過去最大大人にできることは」八木拓郎

<https://www.asahi.com/articles/ASN3D521N3BUTIL02T.html>

『新しい道德1～3』東京書籍

